

地産地消と付加価値化



9月18日に素人縁日会場で行われたスノーマーチの焼酎「訓粋(くんすい)」の発表会

スノーマーチ普及委員会

じゃがいもを栽培する上での強敵が、そうか病とシストセンチュウ。これに強い品種として北見農業試験場が「スノーマーチ」を開発。
平成20年から町内11戸の農家で70aの栽培が始まり、現在では栽培農家が19戸、作付面積は470aまでに増えています。
普及委員会では、地産地消そして流通拡大に向けて町内全戸に無料配布したり、料理発表会を開いたりと積極的にPR活動を行っています。
一方で栽培・流通拡大だけではなく、焼酎づくりにもチャレンジしました。
昨年収穫されたスノーマーチ1.3tを清里町の工場で焼酎にし、このほど720mlビンで2,300本生産されました。
9月18日の秋まつり素人縁日会場で発表セレモニーが行われ、今後の売れ行きに大きな期待が寄せられています。

訓子府の元気 農業

農業振興へ 新たな取り組み

訓子府町の基幹産業である農業。収穫作業が本格化してきましたが、今年は6月中旬以降雨が多く、夏には猛暑が続く作柄への影響が心配されています。

しかし、農業そして「訓子府の元気」をつくるためにさまざまな農業者グループが新しい取り組みを行い、町内の産業全体を活気付けています。



顔が見える農業

ファーマーズマーケット「夢ミール」

訓子府のおいしい農産物を手軽に確保できる場所をつくらうと、町内の農業経営者5人が、農産物直売所を運営する「ファーマーズマーケット 夢ミール」を3月に立ち上げました。
初の直売会は、5月22日に旧ふるさと銀河線訓子府駅線跡地で開かれ、町内外から大勢の人が詰めかけました。
6月以降は毎月第2・第4土曜日に旧駅舎内で開催されており、8月には北見市の大型スーパーでも開催するなど、活発な活動を展開しています。
旬にこだわり、安心・安全な農産物を消費者に対面販売することは農業者自身、消費者の声や反応を知ることにつながり、消費者には地元農業や生産者の現状を少しでも理解していただき、直売所のさらなる活動の広がりが期待されます。



にんにく栽培

新規作物の産地形成

にんにくは、流通の大半を中国産(輸入)が占め、国内産では青森産が多くを占めています。近年、主要産地の高齢化や後継者不足で北海道での産地化が求められており、きたみらい農協ではその先駆けとして栽培に取り組んでいます。中でも訓子府の生産者が最も多く取り組んでおり、22年産は町内11戸の農家で、67aのにんにくが栽培されました。

にんにくは、10月下旬に植え付け、越冬後、翌年の7月中旬に収穫されますので、本年産の収穫は既に終了しています。植え付けや収穫は手作業のため、今後の面積拡大のためには機械化体系の確立が急務となっています。

また、栽培開始時の種子価格も大変高額なものであり、これに関しては導入時の負担軽減のためにJAおよび行政で支援を行っています。

間もなく23年産の植え付けが始まるようですが、14戸の農家で121a栽培、戸数・面積ともに増える予定です。

